

山下泰裕氏が紫綬褒章受賞

「周りの人に支えられた柔道人生、柔道発展に全力尽す」



受賞の喜びを語る山下泰裕氏
(4月29日 日本武道館で)

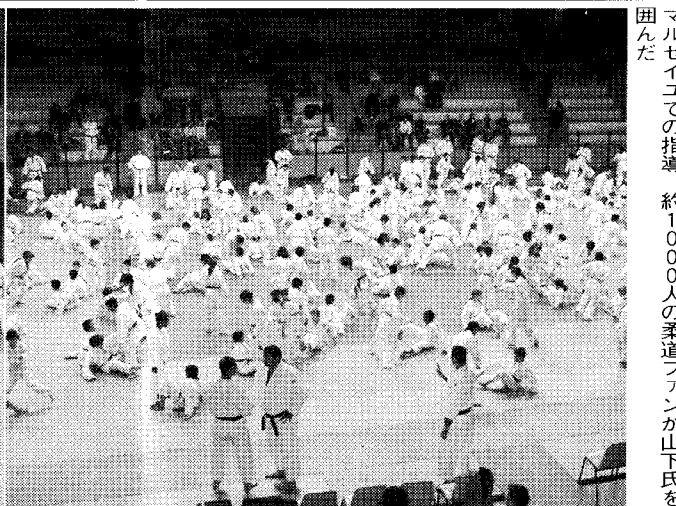
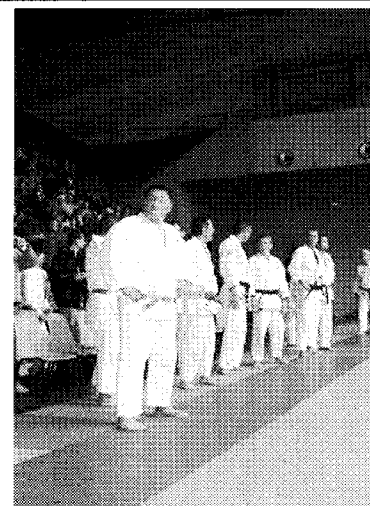
山下泰裕八段(49)が4月28日付で、学術・芸術・スポーツで著しい業績を上げた人を対称にした紫綬褒章受賞の栄に浴した。柔道界では05年秋に受賞した上村春樹八段(現全柔連専務理事)に続く慶事。山下氏は現役時代、203連勝という不滅の記録を残し、日本選手権9連覇、世界選手権3連覇、ロサンゼルス五輪「金メダル」など、数え切れない栄光に輝く不世出の柔道家と称えられた。84年のロサンゼルス五輪決勝戦で右足を負傷しながら優勝し、人々に感動を与えたシーンは今も語り継がれるが、この年国民栄誉賞を受けた。

現役引退後は、東海大、全日本柔道連盟の指導者として

活躍、井上康生ら多くの有力選手を育成し、アトランタ、シドニーの両オリンピックで日本男子監督を務めた。現在は自ら「第二の人生」と呼ぶ、同柔道連盟教育・コーチング理事としての、世界中に柔道を普及する活動に精力を注入し、年間100日以上海外を飛び回る生活を続ける。この間、柔道ルネッサンス委員会を立ち上げ、委員長に就任して「相手を思いやる心を育てる柔道、人作りのための柔道、柔道の持つ精神面の重要性」を根気よく伝え続ける。さらに06年、NPO法人「柔道教育ソリダリティー」を設立、発展途上国に柔道着や畳を贈る具体的な支援活動も展開している。今年2月には、チェチェンの悲劇で知られるロシア南部・北オセチア共和国の子供たちに寄贈、サンクトペテルスブルグで贈呈式を行った。

山下泰裕氏は受賞の感想を次のように話した。

「受賞は全く予想していなかっただけに、知らせを受けて本当に驚いた。選手・指導者時代の実績の他に、現在の



マルセイユでの指導 約10000人の柔道ファンが山下氏を囲んだ

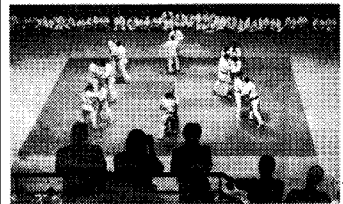
活動が評価されたと聞いてとても嬉しく思いました。柔道のお陰で恵まれた人生を送らせていただいたが、今回の受賞は多くの人に支え続けられたお陰です。恩返しをしよう、と動く、さらに大きな支援・励ましを受けた。柔道新聞に、フランスでの指導・

現地の新聞も大きく報道



サンテミリオングシャトー・オーゾンヌの葡萄畑を見下ろして談笑する山下泰裕、中山正輝(左)両氏

Le monument Yamashita met Marseille à ses pieds



Yamashita Taiyuki, a former Judo world champion, has been honored with the Purple Ribbon Medal. The article describes his contributions to the sport and his work in promoting judo internationally. It mentions his long record of 203 consecutive wins and his success at the 1984 Los Angeles Olympics. The article also highlights his role as a coach and his efforts to support judo in various countries, including France.

前号に掲載したパリ日本文化会館館長・中川正輝氏の寄稿は、大きな反響がありました。山下氏ら日本人指導者の海外での活動を、もっと伝えなければならぬと改めて感じました。掲載に際して中川氏に、「山下氏との2ショット、現地で指導している写真」を依頼していましたが、校了後に到着しましたので、紫綬褒章受賞取材と併せて掲載しました。(徳)